

道博協ニュース 第 120 号

(2017 年 6 月 30 日発行)

第 56 回北海道博物館大会が帯広市で開催されます！

平成 29 年 7 月 6 日(木)から 7 月 7 日(金)に帯広百年記念館において、第 56 回北海道博物館大会が開催されます。これは、北海道の博物館・園および関連施設に勤務する職員ならびに博物館・園等の活動に協力する人々が集い、博物館等をとりまく課題や諸問題を研究・討議し、博物館活動さらには生涯学習の振興に寄与することを目的として開催するものです。

今回の大会テーマは、「博物館と情報～地域の宝を“掘り起こす・伝える・のこす”～」です。1 日目の基調講演には、北海道大学総合博物館の山下俊介氏、事例報告には、浦幌町立博物館の

持田誠氏、北広島市エコミュージアムセンターの畠 誠氏、平取町立二風谷アイヌ文化博物館の関根健司氏、コーディネーターに北海道博物館の青柳かつら氏を予定しております。

2 日目には、エクスカージョンを開催し、帯広百年記念館やおびひろ動物園などを訪れます。

会員同士の交流の場として、自己研鑽の場として、事務局一同、大会の盛会に向けて努力して参りますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

(北海道博物館協会 事務局次長 栗原憲一)

大会テーマ	博物館と情報～地域の宝を“掘り起こす・伝える・のこす”～
	博物館には地域の宝ともいえる様々な情報（資料）が収蔵されています。これらの情報（資料）をどのようにして後世に伝え、遺すのか、またどのように活用するのかを考え、実践することは博物館の使命でもあります。
	革新的な進歩を見せるデジタル技術の活用もその方策として有効ですが、一方、アナログ的な手法も重要な手段と考えられます。今回は、博物館がもつ情報の保存・活用の課題と展望を考えます。
趣旨説明	コーディネーター 北海道博物館 青柳かつら氏
基調講演	
	「博物館資料とアーカイブー活動を資源化する」
	北海道大学総合博物館 山下 俊介氏
事例報告 “掘り起こす”	
	「収蔵庫の持つ力ー地域資料と向き合う学芸員の専門性」
	浦幌町立博物館 持田 誠氏
事例報告 “伝える”	
	「郷土の資源とその伝え方ー北広島マンモス大復活プロジェクトから」
	北広島市エコミュージアムセンター 畠 誠氏
事例報告 “のこす”	
	「アイヌ語伝承の試み」
	平取町立二風谷アイヌ文化博物館 関根 健司氏
総合討論	

道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

地図と鉱石の山の手博物館の紹介

山の手博物館は2004年4月27日、地図と鉱石の展示、資料収集を目的とし、私設博物館としてオープンしました。専門への特化と他の博物館との連携で、特別展の企画や他の博物館の見学等のイベント、情報発信を通じて普及博物館としての活動を中心に行っています。当博物館は、北海道大学総合博物館、産業技術総合研究所(旧地質調査所)をはじめ、多数の民間団体の協力で設立した、北海道の資源、環境、地質、地図の博物館です。

1階は、主に鉱物・鉱石の展示を行っております。国内外の色や形が特徴的な鉱物や鉱石を、身近に見ることが出来るよう明るい照明設備を設置しています。センターテーブル上の展示物は、自由に触れたり観察したりすることができます。ブラックライトを使用した蛍光鉱物の展示もあります。顕微鏡観察コーナーでは、実体顕微鏡や岩石薄片を観察する偏光顕微鏡を展示しており、実際に砂の標本などを観察できます。展示物は主に北海道に産出した金・銀・銅・鉛・亜鉛といった金属鉱山の鉱石や、各種岩石です。他に、世界のめずらしい鉱物や、宝石の原石も見ることができます。

地下1階の地図コーナーは研修室をかねてお



夏恒例のイベント『巡検』の様子

り、200近い鉱山の地質図・坑道図・鉱山関係資料をはじめ、古地図・古い測量図面等を収納しています。その他、地質・鉱物・岩石関連の図書、学会誌等も閲覧できます。床面には北海道の立体視地図、壁面には地図パネルを展示しています。大型テレビ・音響設備があり、講演会・講習会を行うことができます。他に、機器展示コーナーや販売コーナーもあります。

地学全般の普及・啓蒙活動の一環で、地質図(地質研究所・産業技術総合研究所)を販売しています。毎年夏には、『巡検』などイベントを実施しており、多くの石好きの皆さんが参加しています。

([一財]山の手博物館 学芸員 櫻間静恵)

道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

北海道新幹線「開業効果」と道南各館園の入館者

北海道新幹線の開業から1年が経過しました。函館市に於いては、平成28年度の観光客入込数が560万人を超えたとの報道も為され(北海道新聞、5月25日)、これは、前年対比で約13%の伸び。統計が残る昭和30年度以降で最多とのこと。

さて、当協議会の加盟館園の中で利用客数が報道されている施設は、「五稜郭タワー」が前年対比で約31%の増加、「箱館奉行所」が同約24%の増加、「松前城資料館」が同約15%の増加となっています。その他、加盟施設ではありませんが、「旧函館区公会堂」が前年対比で約15%の増加、檜山地区では「江差追分会館」が同約

40%と大きな伸びとなっています(函館新聞、4月5日)。北海道新幹線の開業は、程度の差はあるにしても、渡島檜山管内への観光客入込増に寄与したことは否定できないものと言えます。

しかしながら、報道機関が調査対象としているのは観光的性格の強い館園であり、利用者の割合は地域住民よりも観光客が多く、「開業効果」として良好な数字として表れてくるのは当然です。観光地に位置し観光客を主な対象とする館園と地域住民を対象とする館園では設置目的も利用者の「客層」も異なり、両者を入館者数で比較することは無意味なことですし、「開業効果」の実感が全く無い(逆に観光地に奪われて減少している場合も?)というのも当然の感想です。報道では利用者数のみがクローズアップされ、「前年対比何%」という表現が殆どですが、重要なのは利用者が本当に満足したかどうか、そしてリピーターに繋げていけるか否かという点であると考えます。これは「観光」の分野に於



いて言われることですが生涯学習施設としての館園に於いても同様で、そこに知恵を絞って日々苦勞していることと思います。

ただ、「北海道新幹線」の開業は交流人口の拡大という点に於いてプラス要素であることに間違いはありません。道南を訪れる「お客様」に対して、地域の歴史や自然、文化の豊かさを発信していく絶好の機会が到来しているとの認識に基づいた、協議会加盟各館園の取組みと連携が重要になってくるのでしょうか。

(五稜郭タワー(株) 企画室長 木村朋希)

日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

平成29年度日胆地区博物館等連絡協議会総会及び研修会をアイヌ民族博物館にて開催

平成29年度の日胆地区博物館等連絡協議会及び研修会を、5月24日(水)～25日(木)にかけて行いました。

2020年の国立博物館オープンに向けた本格的な工事が進められつつある白老町がホストとなり、(一財)アイヌ民族博物館の体験学習館を会場として拝借。既にポロトの西側では造成工事が始まり、博物館の敷地内でもボーリング調査を行っており、慌ただしさが漂うなか各館園より26名が参加しての開催となりました。

研修会では国立アイヌ民族博物館設立準備室より内田祐一調査官をお招きし、展示プラン等についての講話をいただきました。偶然にも前日、「民族共生象徴空間」の公開日が2020年4月24日と報道されたばかり。驚きと困惑を参加者の多くが共有するなか、内田調査官も苦笑いを交えつつ、建屋デザインや館内の間取りについて、図面の表示による詳細の解説や、展示理念や設計等に関する今後の構想を紹介いただきました。

地元を取り組みについては内田調査官に引き続き、陣屋資料館の武永真館長が紹介。白老町では多文化共生のまちづくりを促進・発展させるべく、平成26年度に「白老町活性化推進会議」を立ち上げ、共生公園の周辺整備や郷土史の理解促進を企図した事業を行ってきました。



内田調査官による講話

教育委員会でも郷土史を主題とした講座を増やし、まち歩きガイド「しらおい再発見」を発行するなどの取り組みを展開していますが、年間100万人と予想される来町者を迎え入れ、博物館の膝元として期待される体制を備えるにはまだまだ準備不足です。

因みに、陣屋資料館でも職員が拙い英語を喋る機会は増えています。研修会では参加者からも、他の自治体や伝承団体との連携について質問されました。課題ばかりの現状ですが、皆さまのお力添えをいただきながら、着実に歩みを進めて行きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(白老町教育委員会 学芸員 平野敦史)

道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

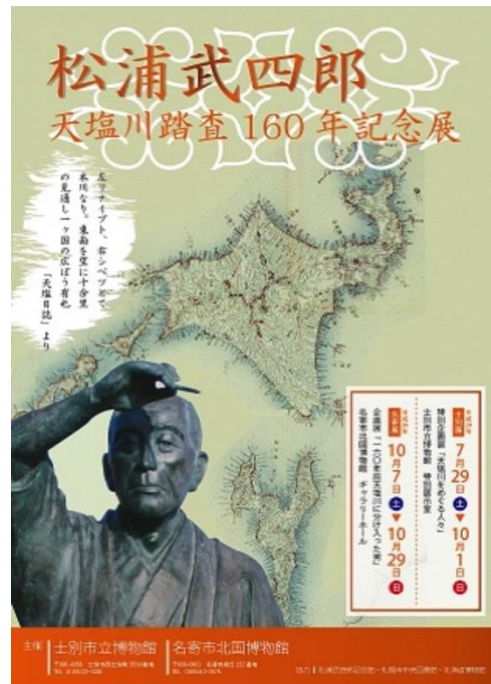
士別市立博物館・名寄市北国博物館 合同展「松浦武四郎天塩川踏査160年記念展」開催

「2018年、北海道は命名150年」のキャッチフレーズの下、北海道150年事業実行委員会が主体となり、来年に向け様々な取り組みが準備されているところです。

北海道の名付け親は言わずと知れた松浦武四郎であり、安政4(1857)年に天塩川筋を探検し、今年がそれから160年の節目の年です。武四郎は天塩川筋の内陸部をアイヌの案内とともに踏査し、現在の音威子府村の古老・アエトモからアイヌの古い呼称が「カイ」であることを教えられ、蝦夷地に代わる地名の一案として「北加伊道」と明治政府に上申しました。

今年度、天塩川上・中流域に位置する2館で、北海道命名150年のプレ企画の意味合いも込め、合同で展示会を開催します。士別市は特別企画展「天塩川をめぐる人々」(開催期間：7月29日～10月1日)、名寄市は企画展「160年前天塩川に分け入った男」(開催期間：10月7日～10月29日)と題し、一部内容を変えてリレー方式で開催します。

展示内容については、両館合同で準備を進めてきましたが、特に士別市立博物館・森久大学芸員に尽力頂き、松浦武四郎記念館からは武四郎直筆の粉本、「矢立」、札幌市中央図書館から



は「北海道国郡全図」をはじめ貴重な資料の数々を、また北海道博物館から蝦夷日誌各種を借用し展示します。加えて当館所蔵の「天塩日誌」に描かれたゆりかご、五弦琴、キセルなどアイヌ民具の復元資料も展示します。関連企画として8月6日には士別市に於いて松浦武四郎記念館・山本命学芸員、北海道博物館・三浦泰之学芸主幹を迎え、フォーラムを開催します。

これを機に天塩川をキーワードとして流域で協働し、先人の歴史・文化を次の50年に向け継承していきたいと思っております。

(名寄市北国博物館 館長 吉田清人)

網走管内博物館協議会 NEWS

網走市立郷土博物館施設紹介 ～常設展示をリニューアル～

網走市立郷土博物館は、昭和11年11月3日に開館した、北海道における初期の博物館の一つです。建物の設計は、F.L.ライトに師事した建築家、田上義也によるもので、赤いドーム屋根、螺旋階段、十字形平面など、独特の建築様式となっています。

展示は、1階が自然、2階が歴史と文化をテーマに、郷土網走について総合的に紹介するものとなっています。



網走市立郷土博物館外観

平成28年、博物館が開館から80年をむかえるにあたり、常設展示をリニューアルしました(1階展示室/2階は平成29年度実施)。リニ



1階展示室 郷土網走の自然を紹介

リニューアルにあたっては、北海道最古の博物館建築としての文化財的価値を再認識し、展示資料

との調和を目指すものとししました。1階エントランス正面には新たに博物館の沿革、建築関連資料を展示、展示ケースも田上自身によって設計された開館当時の什器を使用しています。

展示室部分は、網走の自然をテーマに、十字形平面を意識した左右対称の展示配置（陸の動物／海の動物）としたほか、既存展示資料を精査、網走の特色ある風土や景観を多種多様な複製資料とともにより具体的に紹介しています。

平成29年度は引き続き2階部分（歴史・文化）についてのリニューアルを実施します。展示公開は開館記念日の11月3日です。

（網走市立郷土博物館 学芸員 梅田広大）

道東3管内博物館施設等連絡協議会 NEWS

情報マップの発行と平成29年度総会の開催

道東3管内博物館施設等連絡協議会では、平成28年度末の事業として2年ごとに作成している「十勝・釧路・根室～博物館等情報マップ」を改訂・発行しました。今回の改訂では、平成28年度に新たに加盟した羅臼町郷土資料館の情報を追加したほか、マップ面に十勝海岸湖沼群をはじめとする湖沼を追加、道路の延伸などの微修正を行いました。この2年で道東道は阿寒ICまで延伸した一方で、根室市歴史と自然の資料館の最寄り駅であった花咲駅が廃止になるなど、寂しい修正作業もありました。

このマップの特徴のひとつは、加盟館園以外の



釧路市立博物館で開催した平成29年度総会の様子

博物館機能を持った施設も掲載していることです。「弟子屈町郷土資料収蔵庫てしかがの蔵」など、文字数の関係で泣く泣く掲載を見送った施設もあり、次回の改訂では更に充実させるべく、楽しいマップ作りに活かせる情報を収集しています。

「十勝・釧路・根室～博物館等情報マップ」は加盟館園に1000部ずつ分け、各館で配布しているほか、3管内のホームページ等でPDFデータも公開しています。

また、5月24日には役員会と総会を釧路市立博物館で開催しました。総会には加盟19館園のうち13館から合計26名の方がご参加くださいました。今年は北海道博物館大会が帯広市、ミュージアムマネジメント研修が羅臼町で開催されることから、これらの開催要項も総会で確認しました。



十勝・釧路・根室～博物館等情報マップ

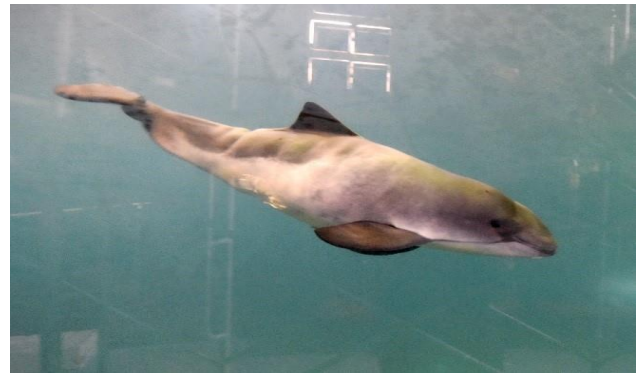
（釧路市立博物館 学芸員 加藤ゆき恵）

日本動物園水族館協会北海道ブロック NEWS

ネズミイルカの繁殖について

皆さんはネズミイルカをご存知でしょうか。北海道沿岸に生息している小型のイルカですが、知名度はそれほどでもなく、生態もよく判っていません。本種は学術研究目的のみ飼育が許可されていて、小樽水族館は北海道大学大学院水産科学研究院が行っている彼らの空間認識能力の研究に協力し、4頭飼育しています。その中の1頭のメス、アツコ（14歳）が平成29年5月30日に出産しました。生まれた仔が自力で泳ぎ、最初の呼吸をしたとき、スタッフ全員が歓喜しました。ところがアツコの哺乳行動がみられません。そこで、人工哺育を試みました。

ですが出産例は世界的にも少なく、ミルクの成分もよく判っていません。イルカの母乳はウシなどの陸上動物に比べ高脂肪のため、イヌ用粉ミルクに鮭油や生クリームを添加し調整しました。近縁種のスナメリの例を参考に、手探り状態でスタートしました。授乳は1時間半おきで1日16回。飼育係だけでなく事務職員も総出で24時間体制で行いました。カロリーを増やし体重も少し増加し、ほっとしたのも束の間、生後14日目に体調が急変し、仔は死亡しました。死因は細菌性肺炎でした。初乳を飲んでい



ないため、免疫力が著しく低下していたと考えられます。

残念な結果に終わりましたが新たな知見も得ました。北大では世界で初めて新生仔が発する鳴音を記録しました。剖検時に消化管の構造を調べ、胃の容積が90mlであることがわかりました。これは1回分のミルク量の指標となります。外国の研究者から貴重な助言も頂きました。免疫強化に必要な初乳をアツコから採取するために、他種で行われている日頃の受診動作トレーニングを取り入れることは重要課題です。

今回の「死」から学んだことを、次回の「生」につなげることができるようにより一層努力していきたいと思えます。

(小樽水族館 飼育部海獣飼育課 角川雅俊)

学芸職員部会 NEWS

コラム本のトークショーを札幌で 開催＆函館で開催予定

昨年11月に、学芸職員部会から『北の学芸員とおきの《お宝ばなし》』を寿郎社から刊行しました。前回の道博協ニュースで告知しましたが、その刊行を記念したトークショー「集合！北の学芸員・地域の謎を解き明かす博物館学芸員の仕事と喜び」を、4月1日に紀伊國屋書店札幌本店1F インナーガーデンにて開催しました。会場の座席はほぼ満席で、80名ほどの来場者がありました。本も他のトークショーに比べて売れ行きが良かったようで、大盛況で終わりました。来てくださった会員の皆様、ありがとうございました。

トークショーは司会を栗原氏が務め、森岡氏・志賀氏・齋藤氏・持田氏・大谷の5名がパ



札幌開催の様子

ネリストとして登壇。それぞれが書いたコラムについて持ち時間5分で発表（思いが熱くて発表を5分以内でまとめられたパネリストはいませんでした）し、関連した実物資料（標本等）を会場内に回して手に取ってもらいました。そして学芸員という仕事の魅力や、なぜ学芸員に

なったのかをトークし、終了後にはサイン会も開催されました。

その後、多くの人に学芸員について知ってもらうためにも、地方でも開催したいという話し合いがあり、次は道南で開催することになりました。

トークショーは8月12日の16時から17時30分で、函館蔦屋書店2階イベントスペースにて、道南のコラムを取り上げます。予定パネリ

ストは、石井淳平氏(厚沢部町教委)、宮本雅通氏(今金町教委)、竹田聡氏(知内町郷土資料館)、佐藤卓司氏(小樽総合博物館)、大谷で、司会は澤田健氏(富良野市博物館)か森岡健治氏(平取町立二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館)が務めます。会員の皆様にも来ていただき、盛り上げていただければと思います。

(八雲町郷土資料館 学芸員 大谷茂之)

北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

平成29年度北海道青少年科学館連絡協議会総会を開催

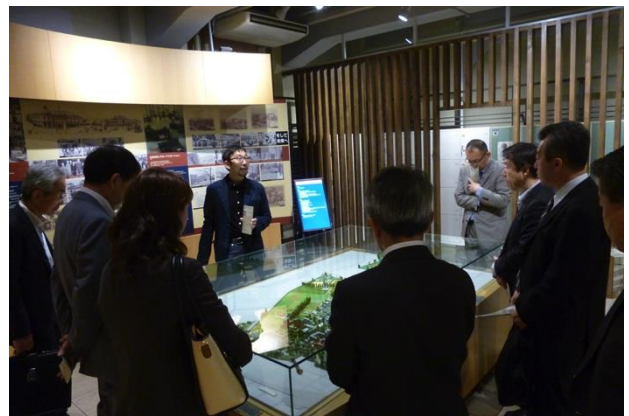
5月11日、12日に北海道青少年科学館連絡協議会(以下「道科協」という)の総会と館長会議を札幌で開催いたしました。

道科協に加盟する全14館(うち道博協加盟館7館)が参加した総会では、各館から推薦された職員7名の勤続表彰を行いました。

総会後の館長会議での意見交換では、施設の老朽化と展示物の維持管理が話題となりました。博物館の中でも科学館の展示物は実際に動かすことで意味を成す稼働型のものが多く、子どもたちが触れる=学ぶほど故障が増えるので修繕や展示物の更新は科学館の運営には不可欠です。進歩する科学技術に合わせて展示物の更新を定期的に行いたい、常に展示物が正常に動作する環境にしたいと考えていても、高価な機材や設備は何十年も更新ができないケースがほとんどです。

年々厳しくなる予算の中でどのように施設を維持し、効率的に事業を行っているか、活発な意見交換が行われました。

また、2日目には観光客にも人気で、昨年リニューアルしたばかりの北海道大学総合博物館を視察しました。札幌農学校以来の大学の歴史



コーナー、全12学部の取り組みを紹介するコーナー、学術資料コーナーなどに分かれた展示は、どれも見応えがあり参加者も思わず見入っておりました。また、古い標本を包んでいた新聞紙から明治・大正期の風俗を学ぶコーナーなど、もともとあった資料を新しい視点から取り上げる工夫がされておりました。

案内していただいた江田講師の「予算の大半は古い建物の耐震工事に充てられたので、展示の構成には苦労しました」というお話に、参加者もうなずいていました。限られた予算の中で、既存の展示物を生かしながら見せ方を工夫して展示室を充実させるヒントとなる2日間でした。道科協では、秋に職員研修と2回目の館長会議を行う予定です。

(札幌市青少年科学館 管理課 木野 翠)

北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

第25回北海道学芸員研究協議会

本年3月2日・3日の両日、第25回北海道

美術館学芸員研究協議会が北海道立近代美術館にて開催されました。以下、概要を記します。

当初は道立美術館の学芸員の研修の場からはじまり、その後さらに輪を広げて再出発した本会の誕生から四半世紀、10館30名あまりだっ

た会員数は、現在では80名を超えるまでになりました。会員の所属する美術館や博物館、関連機関等も約40箇所になります。

その第25回記念となる今回の研究協議会のテーマとして設定されたのは「美術館のネットワーク」。美術館、博物館をとりまく状況はさまざまな面で変化しつつあり、また館の運営や企画面でも一層の工夫や努力が求められるなか、分野を同じくする館や学芸員の、あるいは館種を超えた連携やネットワークは、非常に重要なものといえるでしょう。

そのプログラムを簡単に紹介します。第1日目は、特別講話として岩手県立美術館首席専門学芸員兼学芸普及係長の**大野正勝氏**（同氏は以前に札幌芸術の森美術館に勤めていて本会OBでもある）による「ミュージアム・ネットワークと学芸員」。そして国立アイヌ民族博物館準備室主幹の**佐々木史郎氏**による、2020年に開館を予定している同館のネットワーク計画についての構想の報告紹介。また一般財団法人地域創造の**吉崎元章氏**からは、複数の館等が連携協力した企画への助成事業に関して、その効果的な活

用についての「地域創造活用法」の3プログラムでした。

その後、参加の各館からの日頃の問題点や情報交換として「北海道指定文化財（美術工芸）の指定」「春画の展示」「展示室内での写真撮影・携帯電話の使用」「展示室入場者の会話等への対応」などが報告・協議されました。

2日目は、SF作家**荒巻義雄氏**による特別講話「芸術都市宣言のための秘策—美術の未来学」の後、会員からの研究発表・調査報告として「《四つの風》の30年」（札幌芸術の森美術館学芸員・井上みどり氏）、「北見信善光寺の屯田兵人形について」（北網圏北見文化センター美術館学芸員・松浦葵氏）が行われて、主なプログラムを終了しました。

今後も会員にとって、各館にとって意義のある研究協議会として続けていきたいと思っています。

（北海道美術館学芸員研究協議会

幹事長・地家光二）

イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 平成29年7月～10月

詳細は各館園にお問い合わせください

石狩

●つきさっぷ郷土資料館（011-854-6430）

7/15～10/31 札幌市平和都市宣言25周年記念スタンプラリー
7～9月 昔の子供のあそび

●北海道大学総合博物館（011-706-2658）

7/1 バイオミメティクス市民セミナー「視覚センシングとロボット制御の高度化」
7/8 土曜市民セミナー/道民カレッジ連携講座「体の“あぶら”の酸化と抗酸化」
8/4～10/1 企画展 常設展示室新設特別企画「惑星地球の時空間」
8/5 バイオミメティクス市民セミナー「農作物の表面構造で害虫の被害が変わる？」
8/12 土曜市民セミナー/道民カレッジ連携講座「鳥、パンデミック、そして季節性インフルエンザ対策—人獣共通感染症克服戦略の要例として—」
9/2 バイオミメティクス市民セミナー「昆虫や植物の濡れを物理と化学から考える」
9/9 土曜市民セミナー/道民カレッジ連携講座「北極の陸、川、海、と利用」

●北広島市エコミュージアムセンター（011-373-0188）

7/22～10/29 企画展「北広島を育んだ自然環境」
7/29～8/6 旧島松駅通所ライトアップ～夏編～

8/4 体験教室「カブトムシ・クワガタムシ採集教室」

●いしかり砂丘の風資料館 (0133-62-3711)

7/8～8/27 テーマ展「アリジゴク！～石狩砂丘で生態を暴く～」
 7/22 体験講座「テンキ作りーハマニンニクを編むー」
 7/29 体験講座「勾玉作り」
 8/5 体験講座「縄文文化のくらしをジオラマで作ろう」
 9/20～11/6 テーマ展「土器文様の不思議ー石狩市内の遺跡からー」
 9/30 体験講座「サケ切身骨格標本をつくる」
 10/21 トークイベント「ウミベオロジー／石狩海辺学 2017」
 10/28 体験講座「縄文土器の文様を作ろう」
 10/29 野外講座「石狩ビーチコーマーズ／秋の海辺の漂着物」

●北海道博物館 (011-898-0456)

7/8～9/24 特別展「プレイボール！ー北海道と野球をめぐる物語ー」
 7/9 ちゃれんがワークショップ「石器をつくる」
 7/15 特別イベント「北海道ジオパークまつり 2017」
 7/16 講演会「一途一心の野球道（みち）」
 7/22 ちゃれんが子どもクラブ「ちいさな野球盤づくり」
 7/30 ミュージアムカレッジ「明治・大正・昭和の日記に見る北海道と野球」
 8/5 ちゃれんが子どもクラブ「トノサマバッタを追いかけよう」
 8/6 講演会「日本野球界の現状と課題～野球王国北海道を目指して～」
 8/19 ちゃれんが子どもクラブ「フェルトで野球のバットとボールのストラップをつくろう」
 8/26 講演会「ガンちゃん、北海道日本ハムファイターズを語る！」
 8/27 ミュージアムカレッジ「権太全島野球大会」
 9/2 ちゃれんが子どもクラブ「トコロテンの不思議」
 9/3 特別イベント「博物館寄席『北海道 野球の歴史でございます』」
 9/10 講演会「北海道高等学校野球連盟 70 周年を迎えて」
 9/16 ちゃれんが子どもクラブ「アンモナイトを解剖しよう」
 9/17 講演会「ブラバン応援 もうひとつの夏の闘い」
 9/24 ミュージアムカレッジ「全道権太実業野球大会」
 10/20～11/26 企画テーマ展「弥永コレクション」

●野外博物館北海道開拓の村 (011-898-2692)

7/14～8/27 特別展「表現革命 北海道の画学事始め」
 7/14～8/27 特別展関連展示「児童写生会歴代優秀作品展」
 7/14～8/27 特別展関連展示「平成の『生まれ出づる悩み』展」
 7/30 たてもの観察会③「公設家屋の建築様式」
 8/5～7 年中行事「七夕」
 8/27 学芸員トークむらの建物探訪③「北の郷土づくり」
 9/1～10/31 作品展「第 35 回北海道開拓の村児童写生会絵画展」
 9/9 たてもの観察会④「郷里の建築様式」
 9/16～18 体験ほか「秋のふるさとまつり」
 9/24 学芸員トークむらの建物探訪④「探索！文明開化」
 10/1 年中行事「十五夜 お供え・お飾りづくり」
 10/7・8 特別イベント「紅葉のむら・宵のたてものライトアップ（夜間開館）」

●札幌市青少年科学館 (011-892-5001)

7/22	イブニングプラネタリウム
7/22～8/20	特別展「たべものの冒険～消化！そういうことか！～」
毎日	サイエンスショー
毎日曜	日曜実験室

●小原道城書道美術館 (011-552-2100 <日本書道評論社内>)

8/5～11/30	企画展「幕末の三筆・市河米庵と一族門流展」
8/5	ギャラリートーク「市河米庵の人と書（講師：国際書道協会会長 小原道城）」
9/16	ギャラリートーク「市河米庵とその門流（講師：国際書道協会理事長 新谷谿雪）」
10/14	ギャラリートーク「市河米庵と門流の書の特質（講師：北海道書道連盟理事長 本間孤峰正啓）」
11/25	ギャラリートーク「幕末の書にふれて（講師：国際書展・毎日展・道展審査会員 佐藤翔雲）」

空知

●三笠市立博物館 (01267-6-7545)

7/15～10/9	特別展「違う生き物、同じ生き物、どうやって種をわけの？」
7/15・22・29、8/5・14・15	参加型イベント「夏休みスペシャルイベント」
8/11～16	参加型イベント「化石博士になろう！」

●栗山町開拓記念館 (0123-72-6035)

7月	特別展「古写真で見る昔の栗山」
7月	夏休み特別企画「ビー玉迷路」

後志

●小樽市総合博物館 (0134-33-2523)

4/29～7/17	企画展「旧手宮線が伝えるもの—小樽の鉄道史—」
6/24～9/21	トピック展「運河館トピック展『榎本武揚—小樽に賭けたテクノクラート—』」
7/23～11/5	企画展「百蛾繚乱（ひゃくがりょうらん）—完全公開！博物館の蛾類コレクション—」
7/8	ギャラリートーク「運河展トピック展ギャラリートーク」
7/15	ミュージアムラウンジ「社会福祉事業からみた小樽の歴史」
7/22	プラネタリウム「特別投影『土星の環』」
7/22	星空観望会「土星を見よう！」
8/5	標本作り「昆虫標本をつくろう！」
8/6	体験工作教室「望遠鏡を作って夜空を観察しよう」
8/12	ミュージアムラウンジ「小樽によみがえる榎本武揚」

●西村計雄記念美術館 (0135-71-2525)

7/15～9/24	特別展「しりべしミュージアムロード展『おしゃべり美術館～あなたが紡ぐものがたり～』」
7/15～9/24	コレクション展「夏から秋の展覧会 西村計雄 小品の魅力」
9/28～2/18	コレクション展「開館18周年記念展 パリの日本人画家・ニシムラについて」
10/14～12/4	公募展「しょうかいしたいな！わたしのだいすき」

●木田金次郎美術館 (0135-63-2221)

7/1～11/5	特別展示「二千六百年の足跡～戦前・戦中の木田金次郎～」
----------	-----------------------------

7/15～9/24	しりべしミュージアムロード展「おしゃべり美術館」
9/28～10/29	企画展「前川茂利が撮った岩内〈後編〉～街のくらし～」
7/8	美術館講座②「学芸員のシゴト 歴史を掘り下げる」
7/16	イベント「第23回木田金次郎生誕祭」スライドショー
8/3	「夏休みワークショップ」
9/2	「ミュージアムロードコンサート」
9/9	美術館講座③「学芸員のシゴト 現地探訪バスツアー」
9/30	イベント「秋のナイトオープン」

●岩内郷土館 (0135-62-8020)

5/30～7/17	企画展「縄文時代の岩内」
7/25～9/18	企画展「茅沼炭鉱採掘開始160年 進取の気質を育てた茅沼炭鉱」
9/23～11/26	企画展「夏目漱石生誕150年岩内転籍125年記念 漱石と岩内展」

●一般財団法人荒井記念美術館 (0135-63-1111)

7/1～9/10	常設展示「ピカソ版画収蔵品展Ⅱ『ピカソと神話』」
7/15～9/24	しりべしミュージアムロード展「おしゃべり美術館」
8/23～11/12	常設展示「西村計雄秀作品展Ⅱ『西村計雄のカラーパレット』」
9/3	しりべしミュージアムロードコンサート「大島さゆり・多川智子・亀岡三典によるトリオコンサート」
10/22	ピカソ生誕祭 (入場無料)

渡島

●七飯町歴史館 (0138-66-2181)

7/15	自然観察会「駒ヶ岳の植物観察会」
7/23	自然観察会「昆虫採集・標本づくり教室」
10/1	講座「ふぁみりーでいみゅーじあむ『りんごジャムづくり』」

●八雲町郷土資料館 (0137-63-3131)

4/29～8/27	企画展「熊をモチーフとした木彫家 柴崎重行の世界」
7/15～9/3	企画展「八雲町新指定文化財展」
9/9～11/19	企画展「ユーラップアイヌ～権久コレクション展～」

檜山

●ピリカ旧石器文化館 (0137-82-3488 〈今金町教育委員会〉)

7/23	イベント「ピリカ遺跡まつり」
------	----------------

日高

●沙流川歴史館 (01457-2-4085)

9/26～11/26	特別展「クマの意匠」
10/25	講座「北海道士産としての木彫り熊—その発祥と展開—」 八雲町郷土資料館学芸員 大谷茂之

●平取町立二風谷アイヌ文化博物館 (01457-2-2892)

6/10～7/9	企画展「『昭和、二風谷おみやげ物語』展」
7/22～8/4	企画展「柴田大輔写真展『辺境の故郷』～コロンビアに生きる先住民族と和平への取り組み～」
7/26～8/20	体験学習「アイヌ文様を彫ってみよう」

- 9/16 セミナー「アイヌ口承文芸の継承—語り—の記憶を未来へ—」
 10/15～12/15 特別展「沙流に伝わるアイヌ口承文芸の継承」

●日高山脈博物館 (01457-6-9033)

- 7/1 日高山脈自然体験隊2017「魚釣り&ダッチオープン料理」
 7/30 日高山脈ネイチャーセミナー2017 岩石地質講座「日高の岩石の種類と見分け方」
 8/6 日高山脈自然体験隊2017「おたから石発見隊」
 8/26 日高山脈ネイチャーセミナー2017 自然科学講座「写真で博物館展示を作ろう」
 9/24 日高山脈ネイチャーセミナー2017 岩石地質講座「日高のジオサイトへ行こう」
 10/14 日高山脈ネイチャーセミナー2017 岩石地質講座「日高山脈ジオサイト探訪」

上川

●下川町ふるさと交流館 (01655-4-2627)

- 7/22～8/31 第60回企画展「懐かしの一の橋小学校」

●富良野市博物館 (富良野市生涯学習センター) (0167-42-2407)

- 7/22～9/24 写真展「シマフクロウの聲がきこえる。」
 7/2 自然観察会「富良野の自然に親しむ集い 十勝岳の火山活動と小松原原生林」
 7/22 自然観察会「富良野の自然に親しむ集い 夜の森を歩こう！」
 8/13 自然観察会「富良野の自然に親しむ集い 真夏の夜の天体ショー」
 9/2 講演会「シマフクロウに学ぶ自然保護」
 9/30 見学会「魅力再発見！レトロ建築めぐり」
 10/15 自然観察会「富良野の自然に親しむ集い 秋の自然を切り取ろう」

●名寄市北国博物館 (01654-3-2575)

- 5～12月(8月除く) 観察会「小さな自然観察クラブ」(年7回実施)
 7/1～8/27 特別展「宗谷本線～名寄と歩んだ1世紀～」
 8月 観察会「コウモリ観察会」
 10/7～29 企画展「松浦武四郎 天塩川踏査160年記念展」
 10/1～5 観察会「武四郎ゆかりの地探訪」

網走

●北海道立北方民族博物館 (0152-45-3888)

- 6/3～7/2 ロビー展「カナダ・イヌイトの版画展」
 7/15～10/15 特別展「ユーラシア北方のウマ牧畜民—カザフ モンゴル サハ—」
 7/22 はくぶつかんクラブ「石器のナイフづくり」
 7/23 解説会「特別展展示解説会」
 7/30 講座「北海道博物館紀行『旭川市博物館』」
 8/5 はくぶつかんクラブ「フェルトで作るゲル型小物入れ」
 8/20 解説会「特別展展示解説会」
 9/2 はくぶつかんクラブ「手作りバターと簡単チーズ」
 9/9 講習会「編んで作るグリーンランドのリストウォーマーづくり」
 9/10 講習会「北欧の錫糸細工 プレスレットづくり」
 9/16 はくぶつかんクラブ「革でつくる眼鏡入れ」
 9/17 特別展開連講演会「カザフ草原の暮らしとウマ」
 9/30 講座「モンゴル国のカザフ—遊牧文化と暮らしのなかの刺繍」
 10/1 講習会「カザフかぎ針刺繍入門」
 10/21 講習会「アイヌ文化講習会」

10/28～11/26 ロビー展「北のメカニクス 狩猟ワナの仕組み」

●北極圏北見文化センター (0157-23-6742)

6/3～8/27 科学特別展「広がるいのち」
 7/17 自然観察会「ワッカ原生花園を訪ねて」
 7/22～8/20 美術特別展「一原有徳展」
 7/30、8/11 「夏休み自然体験教室」
 8/20、9/17 自然観察会「晩夏／初秋の自然観察会」
 8/26～9/1 「市内小・中学校夏休み作品標本展」
 7/15 「プラネで天体写真」
 8/6 「夏休み文化センターまつり」
 9/10 「コズミックカレッジ (JAXA 共催)」
 10/7～9 「プラネタリウム祭り【大平貴之講演会】」

●紋別市立博物館 (0158-23-4236)

7/8 番屋講座「七夕飾りを飾ろう！」
 7/16 ガラス工芸教室①「ガラスビーズ」
 7/17 ガラス工芸教室②「フィージング」
 7/22～8/27 特別展「鴻之舞 鉦山閉山 100 周年」
 7/27 子ども考古学体験「縄文土器作り体験」
 8/3 子ども考古学体験「石器作り体験」
 8/5 番屋講座「おり染めでペン立てを作ろう！」
 8/13 博物館講座「宮本和男昔語り」
 8/26 講演「第 25 回 環オホーツク海文化のつどい」
 9/2 子ども考古学体験「火おこし体験」
 9/9 番屋講座「紋別の石に絵を描こう！」
 9/17 体験教室「ガラス玉を作ろう！」
 9/23～10/22 特別展「アートとの対話『人形作家 高木誠展』」
 10/14 番屋講座「かざぐるまを作ろう！」
 11/18～12/10 「北海道写真協会紋別支部写真展」

●美幌博物館 (0152-72-2160)

7/22～10/22 特別展「美幌 なつかしの学び舎」
 7/23 講演会・観察会「ホタルかごを作って、ホタルを観察しよう」
 7/25 モノ作り講座「クワガタの貯金箱」
 8/19 講演会「オスがいない！？不思議な魚フナの話」
 8/20 観察会「オスがいない！？不思議な魚フナの話」
 9/1～10/1 イベント「お宝をさがせ！」
 9/2 講演会「続縄文時代と琥珀玉」
 9/3 見学会「続縄文時代と琥珀玉」
 10/7 講演会「写真でふりかえる 子どもの学び・子どもの遊び」
 10/14 見学会「歩いて発見！ぶら博物館！！」
 10/9～15 イベント「開館 30 周年記念ウィーク」

十勝

●帯広百年記念館 (0155-24-5352)

7/2～7/30 ロビー展「荘田喜與志コレクション 12『昭和からの伝言』」
 8/5～9/24 特別企画展「アイヌ語で自然かんさつ展」
 10/6～11/5 ロビー展「まちなか風景写真展」

7/22	博物館講座「ものがたりの昆虫5」
8/5	博物館講座「アイヌ文化のなかの動物」(特別企画展関連事業)
8/11～13	体験教室「夏の体験ミュージアム」
8/27	郷土学習見学会「十勝平野の生き立ちを探る」
9/2	自然観察会「アイヌ語で自然かんさつ」(特別企画展関連事業)
9/16	博物館講座「おびひろの遺跡語り - 暁遺跡の巻 - 」
9/30	郷土学習見学会「忠類・大樹の歴史をたずねる」
10/14	博物館講座「とてつぼ通りの機関車と客車の系譜」
10/15	博物館講座「ぶらり帯広・文化財」

●北海道立帯広美術館 (0155-22-6963)

7/1～9/3	特別展「放浪の天才画家 山下清展」
〃	コレクション・ギャラリー「ようこそ、バルビゾン村へ」
7/1	美術講演会「家族が語る山下清」
〃	ミニトーク
7/22、8/26	特別展セミナー「山下清・人と作品」
7/29	ワークショップ「ぞっこん！山下清ワールド」
8/4	キッズ・ツアー
8/5	「オビビ・キッズ・アートフェスタ」(制作と鑑賞のプログラム)
8/6	「ミュージアム・ミステリー2017 サマー」(鑑賞プログラム)
9/2	キッズ・ミュージアム(託児)「おり紙キュービック」
9/12～11/12	特別展「追悼特別展 高倉健」
〃	コレクション・ギャラリー「生誕120年 能勢眞美」
9/30、10/28	特別展セミナー「映画俳優・高倉健の世界」
10/21	キッズ・ミュージアム(託児)「木を描こう」

釧路

●釧路市子ども遊学館 (0154-32-0122)

7/22～8/16	企画展「夏休みイベント『Let's!インドアキャンプ～0泊1日レジャーキブン～』」
9/16～9/18	企画展「宇宙の日イベント」
10/7～10/9	企画展「遊びんピック」
7/30、9/3	太陽観測会「太陽の素顔を探れ！」
8/5・12、10/21	天体観測会「星空キャラバン」

●釧路市立博物館 (0154-41-5809)

7/1～8/27	企画展「釧路の昆虫大集合！～飯島一雄コレクション展 2017～」
7/1～8/27	企画展「フォトグラ・くしろ写真展」
7/8、8/12、9/9	観察会「しらべてみよう春採湖の昆虫」
7/15、8/19、9/16	観察会「春採湖畔草花ウォッチング」
7/16、8/20、9/10、10/15	観察会「春採湖畔探鳥会」
7/22, 23	体験講座「おひさま夏休み『昆虫スケッチ教室～昆虫画家に挑戦！～』」
7/30	探訪会・観察会「バスで巡る飯島一雄コレクション」
8/9	体験講座「化石レプリカ教室」
8/11	講演会「探そう！北海道の虫」
8/19(荒天時 8/20)	観察会「海辺のいきもの観察会」
8/27	歴史探訪会「まちなみ散歩」
9/2～11/5	企画展「冷たい海の大冒険!!!～関勝則が写す北の海の生き物～」
9/10	体験講座「現場で学ぶ『林業基礎講座』」
10/15	海の講演会「くしろの海のいきもの撮影こぼれ話(仮)」

10/29

探訪会「簡易軌道バス見学会アンコール『浜中・別海編』」

●北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)

- 7/1～9/3 追悼特別展「高倉健」
 7/5・12・19 「大人の家庭科&お気楽アート教室」
 7/7～9 「新冠町レ・コード館によるレコード鑑賞のお誘い」
 7/22、8/5・19 「高倉健展ギャラリー・トーク」
 7/22～8/16 「夏のキッズ・アトリエ」
 7/29、8/26、9/30 「アートシネマ館」
 9/2 パフォーミング・シアター2017 ポケットサーカス
 9/9～12 空想と旅の画家 安野光雅の世界
 9/9～10/4 〈我が町のお宝〉展—弟子屈町から

事務局からのお知らせ

■事務局体制の変更について

平成29年4月より、事務局体制が変更となりました。新しい事務局員は下記の通りです。

- 事務局長 舟山直治 (北海道博物館 学芸部長)
 事務局次長 栗原憲一 (北海道博物館 学芸員)
 事務局員 大谷洋一 (北海道博物館 研究職員)
 遠藤志保 (北海道博物館 研究職員)
 尾曲香織 (北海道博物館 学芸員)
 圓谷昂史 (北海道博物館 研究職員)
 塚本道代 (臨時職員)

不慣れな部分も多く、ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。

■平成29年度ミュージアム・マネージメント研修会

日時：平成29年10月19日(木)、20日(金)

会場：羅臼町公民館(羅臼町)

■会費納入のお願い

当協会の活動は会員の皆様の負担金(会費)で運営されています。年会費は、団体会員15,000円、賛助会員20,000円、個人会員3,000円です。以下の口座までお願いいたします(振込手数料はご負担くださいますようお願い致します。)

【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店 (普) 0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】

【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】

■北海道博物館協会ホームページ <http://www.hkma.jp>

■学芸職員部会ホームページ「集まれ！北海道の学芸員」 <http://www.hk-curators.jp>

道博協ニュース 第120号

発行日 2017年6月30日

発行者 北海道博物館協会

北海道博物館協会事務局

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 北海道博物館内

電話：011-898-0456

メールアドレス：dohakukyo.jimukyoku@gmail.com